

JFEシビル

インフラ整備事業に注力

JFEシビル(社長・藤井善英氏)はインフラ整備事業に注力する。官公庁の予算が維持・補修関連に配分される傾向が強くなる中で、製鉄所での保全事業で培った技術を中心に事業を展開。今年度から本格的に商用化を開始し、拡大する維持修繕需要を捕捉する。社会基盤事業部の2016年度売上高は50億円を目標としているが、インフラ関連で18年度に同事業部の1割以上の売上げ規模を目指していく方針。

同社は公共事業を中心とするインフラ関連需要の捕捉に向け、技術の商用化を推進してきた。

コンクリート構造物の補修・補強工法「グリッドメタル」は格子鋼板筋を用いて橋梁など既存のコンクリ

維持修繕需要を捕捉

製鉄所保全事業の技術力生かす

工まで約14%短縮できるほか、地震後の躯体橋脚外観検査やダンパーの損傷度検査が容易で修繕・交換も簡単に行える。早稲田大学の秋山充良教授の指導の下で正負交番載荷試験も実施し、基本性能を確認。引き合いも数多く寄せられているという。

さらに、鉄筋コンクリート構造物向けのコンクリート剥落防止塗料「ペイントガードCV」は三菱樹脂インフラテックと共同開発した製品。首都高速の剥落防止基準「B種」相当の性能を満足する一般的な塗装業者が容易に施工できることを目標に開発され、既にJFEスチールの東西の製鉄所において京浜、倉敷、福山の3地区で約2千平方メートル以上が適用された。

いずれの技術についても国土交通省の新技術情報提供システム(NETIS)を取得。公共工事での適用に向け体制が整ったことで、積極的な採用拡大に努めていく方針。

JFEスチール東日本製鉄所(京浜地区)での「ペイントガード」施工

